福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

学報

2007.11.24 号外

三蔵五訓

真理を探究し，道理を実践する。
豊かな品性を養い，不屈の魂を育てる。
生命を尊重し，自然を畏敬する。
個性を伸展し，紐帯性を培う。
未来を志向し，可能性に挑む。

牟田学長就任講話「Never give up !」

2007/11/5･6

Japan University Accreditation Association
since 1947
ACCREDITED
2007. 4～2014. 3

牟田学長就任講話
Never give up !

福山大学 学長 牟田泰三 プロフィール
1937年生まれ。70歳。1960年に九州大学理学部卒業。1960年から1965年の間，東京大学大学院で研究，博士号取得。65年から71年まで，京都大学で助手として勤務。71年から82年までは京都大学の基礎物理学研究所で研究。その間1977年から78年の1年間，アメリカのフェルミ国立加速器研究所に共同研究のため滞在。1981年には，京都大学基礎物理学研究所の湯川秀樹博士没後，広島大学理学部に移籍。2001年から広島大学で学長をつとめ，この10月から福山大学の学長に就任。

牟田学長は，去る10月19日に就任され，早速11月5･6日大学会館において全学生を対象に就任講話をされました。その中で牟田学長は，大学の使命は教育と研究であり，また自ら国際共同研究をとおしてネバーギブアップの精神を忘れてはならないと語られるなど貴重なメッセージとなりました。参加した学生たちは終始熱心に聴講し，経済学部3年の北川誠君は「先生の努力には感心した。僕もこれからの人生でネバーギブアップの精神を持ち続けたい」と語っていました。

1. 福山大学の初印象

今日は，私の経験に基づいて皆さんに伝えたいメッセージをお話しします。まず私のことから言いますと，10月19日に就任しました。初出勤の日にこの美しいキャンパスを見て，本当に心がなごむ思いでした。こんな美しいキャンパスで仕事ができて幸福だと思うし，皆さんもこのようなキャンパスで勉強ができて，とても幸せだなと思いました。それで福山大学に入り，車から降りて歩いていたら，学生さんが「おはようございます」と気持ちよく挨拶をしてくれたんですね。その日はとても晴れ晴れとした気持ちでした。これからは機先を制して私の方から「おはよう」と言ってやろうと思っています。

2. 大学における教育・研究

鮭とか鱒は生まれたら川を下って海へ降りていきます。海で生活をして産卵時期になると上流に上がって産卵をするわけです。鮭や鱒は産卵するとみんな死んでしまいます。親と子が顔を合わせるチャンスはないんですね。子供たちは自力で生きていくわけです。親たちが大きな海や大きな川で体験してきたことなどを子供たちに語って聞かせることは全然できないし情報は伝わりません。伝わるのは遺伝子を通した遺伝情報のみです。

ところが人や犬や猫などは，子供を産んでもすぐには死にません。人間にとって何ができるかというと，遺伝情報を伝えることはもちろんですが，言葉という道具がありますから子供たちに知識を伝えていくこともできます。ここが人類を鮭や鱒などの動物たちと区別している大きな部分であろうと思います。これが我々人類の文化というものを形成していくんですよね。親から子，子から孫へと伝えていく情報は人類における文化を形成していくわけです。この人類の知的文化というものは，他の動物たちと人類とを大きく分かっているもので，生存競争の中で強力な武器になったことは事実です。文化の継承の部分は，言い換えれば教育ですね。文化の創造の部分，つまり新しい文化を発見して，それを伝えていくという部分，これは研究です。その両方をやっているところがまさに大学なんです。

Never give up !

私は，1977年から1年間，アメリカのフェルミ国立加速器研究所で，素粒子論の最先端の研究に携わりました。それは，素粒子と素粒子との間に働く力の法則を示す基礎方程式についての研究です。その法則が量子色力学で，それはまだ発見されて間もない最新の理論でした。それで量子色力学が本当に正しいかどうか，私と仲間の研究者は，力を合わせてそれを確かめるための計算に取り組みました。それは，当時世界的な競争になっている注目の研究でした。その計算に取りくんで，しばらくして大きな壁にぶつかりましたが，私たちはそれにめげないで，知恵を出し合い，お互いの力を集めてこの困難に立向い，ついにこの計算を成し遂げました。

どんな仕事の場合でも，決してあきらめずに続けることはとても重要で，あきらめないでやっている者の前には必ず道が開ける，とにかくやってごらん，努力を続けてごらん，決して損はしないよ，ということだけは言えると思います。それを達成することによって，単に達成できただけではなくて，いろんなその他の喜びをも味わうことができます。どうか，皆さんも“Never give up !”の精神，これを忘れないで勉学に励んでほしいと思います。

広報副委員長　青木美保

牟田学長にインタビュー

素粒子論に進んだきっかけは？

昭和24年だったと思いますが，湯川秀樹博士が日本人で初めてノーベル賞を受賞したと新聞に大きく載ったのです。私は小学校6年生の時で何も分からなかったのですが，親たちは「日本は戦争に負けたけれど，頭脳では世界一になったんだ，日本人はすごい」と話したり，また丁度そのころ水泳の古橋選手が，世界新記録を連発していました。この2人が僕達には強烈なインパクトがありました。僕は体力がなかったから，古橋選手のようにはなれない。湯川先生のようだったら，勉強したらなれるかもしれない，いま思えば実に単純だったのですね。

研究期間中に何か感じられたことは？

私は通学できる九州大学で物理を専攻し，その後東京大学大学院で，憧れの素粒子論を本格的に勉強しました。いきなり面喰ったのは，東大を卒業して入った彼らはものすごく勉強しているのですね。僕なんかお山の大将で最初は九州へ帰ろうかなと真剣に考えました。でも1年経って気がついてみると，並んでいるんですね。人間の能力なんて，東大だろうが，九大を出ていようがあんまり変わらないんだ。同じ環境の中で努力をすれば同じようなところまではいくんだ，差があるとしたら努力だけだと思いました。これもネバーギブアップの精神ですね。

趣味は多いと聞いていますが？

若い時と比べると，ずいぶんと減ってきていますね。ただスキーだけは長年やっており，バランスさえ取っていれば90歳くらいまで出来るかなと思っています。今でも気のおけない仲間と毎年県北へ行って楽しんでいます。

天体観測も好きです。最近は視力と体力が落ちてきましたが，時には庭に望遠鏡を持ち出したり，仲間と車に機材を積み込んであちこち行ったりしています。

それから釣りも好きです。メジャーはそれくらいですね。

広報委員長　平田宏二

平成20年4月 福山大学 生命工学部に

生命栄養科学科

が誕生します！

管理栄養士養成施設 認可申請中

新しいライフサイエンス系管理栄養士
を育成します。

編集後記

学長就任後の大変お忙しい中でのインタビューでしたが，質問にはひとつひとつ丁寧に，そして情熱を持って語られました。そこには経験に裏付けされた説得力があり，また人柄と真摯な姿勢を伺うことができました。最後に平成19年11月14日「中国文化賞」受賞おめでとうございます。

発　行 福山大学
編　集 福山大学広報委員会
〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵
TEL (084) 936-2111　FAX (084) 936-2213
http://www.fukuyama-u.ac.jp